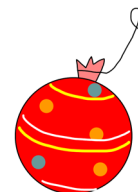


はる
春はあけぼの。



よ　よ　しろ
やうやう白くなりゆく、
やま　はすこ
山ぎわ少しあかりて、



むらさき　くも　ほそ
紫　だちたる雲の細くたなびきたる。



なつ　よる
夏は夜。



つき
月のころはさらなり、
やみもなほ、
お



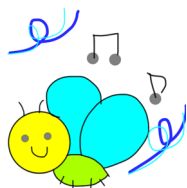
ほたる　おお　と
蛍の多く飛びちがひたる。

また、ただ一つ二つなど、
ひと　ふた

ほのかにうち光りてゆくも、
お
をかし。



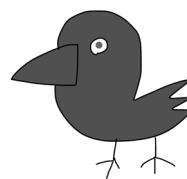
あめ　ふ
雨など降るも、
お
をかし。



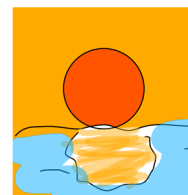
ひい は
日入り果てて、風の音、虫の音など、
はた言ふべきにあらず。



まいて、雁などのつらねたるが、
いと小さく見ゆるは、いとをかし。



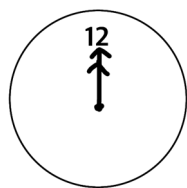
からすの寝どころへ行くとして、三つ四つ、
二つ三つなど、飛び急ぐさへあはれなり。



夕日のさして、山の端いと近うなりたるに、



秋は夕暮れ。



ひる
昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、
ひおけ ひ しろ はい
火桶の火も白き灰がちになりてわろし。



ひ
火など急ぎおこして、炭もてわたるも、
いとつきづきし。



しも しろ
霜のいと白きも、またさらでも、いと寒きに、
さむ



ゆき ふ
雪の降りたるは、言ふべきにもあらず。



ふゆ
冬はつとめて。